

柏崎市長賞

『税金への感謝』

柏崎市立瑞穂中学校 三年 渡邊 凌央

僕たちにとって税金とは何でしょうか。

税金とは、「納めなければならないもの」というイメージが僕の中にあり、使い道について深く考えたことはありませんでした。

しかし、よく考えてみると身の周りには税金でまかなわれているものばかりで、僕たちの「豊かな日常生活」には欠かせないものだと思いました。

僕の両親は会社員で、住民税や所得税などは、給料から差し引かれているそうです。僕は両親が一生懸命働いている姿を見ているので、その両親が納めた税金は大切に使わなければならないという思いでいっぱいになりました。

そして僕が今、十分な学習を受けられているのは、授業料や教科書などを税金で負担してくれているからであり、その他にも、綺麗な校舎で設備が整った環境で学べることや、舗装された道路を通して、安心して通学できることなど、全てが税金のおかげなのです。

それだけではなく、病院での受診料や検査にかかる費用も、医療費助成制度のおかげで一部の負担だけであり、僕たちは経済的に心配なく病気を治すことができます。

こうして考えてみると、僕は生まれた時から今まで税金に支えられながら暮らしてきました。それは、一生懸命働いて納税してくれる方々がいて、その税金を管理してくれる方々がいてのことなので、身近に使われている税金に対し、大切さやありがたみを十分に理解し、感謝の気持ちを持ち続けたいです。中学生の僕が払える税金は、10パーセントの消費税という小さいものにはすぎませんが、消費税以上の恩恵を税金から受けています。自分たちが納めた税金が誰かの役に立っている、逆に誰かが納めた税金が自分たちを助けてくれている、そんな持ちつ持たれつの関係を生み出しているのが税金だと思います。助け合ったり支え合ったりして、今の社会はもちろん、未来の社会も明るくするために、税金があるのではないのでしょうか。税金によって守られ、恵まれた学びの場を与えられている僕たち学生は、学ぶべき時にしっかり学び、納税者となった時には、その役目を果たす義務があります。

しかし、税金を払わされている、税金を納めることは国民の義務であると思うより、税金によって僕たちは助け合って生きていると皆が思えば、もっともつと豊かで住みよい社会になると思います。僕はまだ中学生なので自分の力でできることは無いに等しいですが、税金の使い道に理解を示し、きちんと目を向けて一人一人が高い意識を持って納める、それがとても大切なことです。国民が幸せだと思える社会になるよう僕たちの世代も努力して、当たり前前に感じていたことが当たり前ではないことを自覚し、納税できることを誇りに思えるような立派な大人になりたいと思います。